

平成 25 年度入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いの**ア**、**イ**、**ウ**、**エ**のうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の()の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号

番

次の1から7までの問いに答えなさい。

- 1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。
- (1) 旅行を企画する。 (2) さわやかな朝を迎える。
- (3) 外国に社員を派遣する。 (4) 子どもに教諭す。
- (5) 試合の均衡が破れる。
- 2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。
- (1) バスのザセキをゆずる。 (2) 夕日が校舎をテらす。
- (3) 体力をヤシナう。 (4) エンソウ会に出かける。
- (5) 公園をサンサクする。
- 3 「教室では騒がないようにしよう。」の——線の部分と文法的に同じ意味・用法のものはどれか。
- ア 運動会は雲一つない晴天に恵まれた。
- イ どのような困難にも彼はくじげない。
- ウ 友人のさりげない一言が胸にしみた。
- エ 君の夢が実現する日もそう遠くない。
- 4 次のうち、一つの意味だけに読み取れ、解釈をする上で誤解の生じない文はどれか。
- ア 彼はお昼前に学校に来るよう担任の先生から連絡を受けた。
- イ 母親は笑いながら走り回っている子どもたちに声をかけた。
- ウ 今朝東京に住む兄から正月には実家に帰ると電話があった。
- エ 祖母から誕生日のお祝いに小さなかばんと財布をもらった。

5 A中学校の小林さんは、自由研究のレポートを書くために博物館を訪れた。次の会話の——線の部分のうち、敬語の使い方が正しいものはどれか。

小林 「こんにちは、A中学校の小林です。今日は、郷土の歴史を調べにうかがいました。よろしく願います。」

職員 「こんにちは。先日連絡をくれた小林さんですね。今日はゆつくり見学していただけます。」

小林 「館内では写真をお撮りになってよろしいですか。」

職員 「一般展示しているものなら大丈夫です。」

小林 「ありがとうございます。見学後に質問したいことがあるのですが、どなたに質問なさるとよろしいですか。」

職員 「どのような質問ですか。内容に応じて、専門の者を紹介します。」

小林 「江戸時代について存じ上げている方をお願いします。」

職員 「私の専門なので、後で声をかけてください。」

6 「存在」と熟語の構成が同じものはどれか。

ア 喜劇 イ 未定 ウ 映像 エ 温暖

7 「睡りたる子に止めて置く扇風機(稲畑汀子)と同じ季節を詠んだ俳句はどれか。

ア 離れて遠き吾子の形に毛糸編む (石田波郷)

イ はばからずラムネの玉を鳴らし飲む (石川星水)

ウ 桃の花川はひかりを流しをり (小檜山繁子)

エ 银杏が落ちたる後の風の音 (中村汀女)

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

昔、孔子に、一人有つて来帰す。^(注1)孔子、問うていはく、「汝⁽¹⁾何を以てか来つて我に帰する。」かの俗^(注2)いはく、「君子参内の時、これを見しに、^(注4)颯々として威勢あり。よつて、これに帰す。」孔子、弟子をして、乗り物・装束・金銀・財物等を取り出だして、これをあたへべき。「汝、我に帰するにあらず。」

また、宇治の関白殿、ある時、^(注5)鼎殿に到つて、火をたくところを見る。鼎殿見ていはく、「何者ぞ、左右なく御所の鼎殿へ入るは。」といつて、追ひ出だされて後、さきの悪き衣服を脱ぎ改めて、^(注8)颯々として取り装束して出で給ふ。時に、さきの鼎殿、はるかに見て、恐れ入つて逃げぬ。時に、殿下、装束を竿に掛けられて、押せられけり。人、これを問ふ。答へていはく、「我、人に貴びらるるも、我が徳にあらず。ただ、この装束の故なり。」

⁽³⁾愚かなる者の人を貴ぶこと、かくのごとし。

〔「正法眼蔵随聞記」から〕

(注1) 来帰す||弟子入りするためにやつて来た。

(注2) 俗||世間並みの普通の人。

(注3) 君子参内の時||孔子が王宮に参上する時。

(注4) 颯々として||おごそかな様子で。

(注5) 宇治の関白殿||藤原頼通。平安時代の貴族。

(注6) 鼎殿||湯を沸かす所。また、そこに勤める役人。

(注7) 左右なく||断りなしに。

(注8) 取り装束して||装束を身に付けて。

1 あたへべき は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 見し 見る について、それぞれの主語にあたる人物の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア 孔子 — 宇治の関白殿 イ 孔子 — 鼎殿
 ウ かの俗 — 宇治の関白殿 エ かの俗 — 鼎殿

3 何を以てか来つて我に帰する の意味として、最も適切なものはどれか。

- ア 私のところに弟子入りするのは、どういう理由からか。
 イ 私のところに弟子入りするのを、誰に勧められたのか。
 ウ 私のところに弟子入りするのが、本当によいと思うか。
 エ 私のところに弟子入りするのに、何を持ってきたのか。

4 はるかに見て、恐れ入つて逃げぬ とあるが、「鼎殿」は何を見て逃げたのか。二十字以内の現代語で書きなさい。

5 愚かなる者 とは、どういう人物か。

- ア 道徳的な行いかどうかより、周囲の評価を重んじる人物。
 イ 他者から尊敬されようとして、うわべを飾り立てる人物。
 ウ 権威ある者に取り入ることで、利益を得ようとする人物。
 エ 人格ではなく、外見的要素によつて人を判断する人物。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。①～⑥は形式段落の番号である。

① あるとき人間は、自ら痕跡こんせきをつくりだすことを始めた。いつどこでどのようにして、という問いは永遠に答えを与えられないかもしれないが、文字と呼ばれる痕跡が現れるのは、メソポタミアが最初であったとされている。博物館で見ることのできる、印章いんしょうや粘土板がそうだ。凶案の彫られた石の筒を柔らかい粘土板のうえに転がしてゆくと、同じ凶案が帯状のパターンを描いてゆく。痕跡という自然現象を、記憶のための技術として利用したはじまりである。「書物」という人類最大の財産リストの最初のページに現れるのは、^①自然現象としての痕跡を文化現象として扱うことを思いついた、この発明である。

② 技術というものが、すべて自然のなかから取り出され、自然を変えてきた人間の力だとするならば、痕跡もまた技術である。ただそれは、火や石斧せきふや土器のように目立つてはいない。痕跡は、火や石斧のように、直接物質に働きかけて、破壊したり変形するものではない。その意味で、痕跡は、間接的である。痕跡は必ず、それを読み解く誰かだれが必要であり、その誰かがいなければ、痕跡はただの自然現象でしかない。読み解かれることによつて、痕跡はそれを作り出した誰かの考えや意思を伝える。痕跡は火や石斧のように、直接世界に働きかける代わりに、^②世界を伝えるのである。

③ 人間が痕跡を文化現象としたときの、最大のポイントは、「型」の発明であろう。これは自然をそのまま真似たものではない。化石は一回性の現象である。基本的にひとつの化石にはある個体やある現象が対応する。同じ恐竜の足跡であっても、地面の状態や

歩きかたによつて、それぞれの足跡は微妙に異なっている。メソポタミアの印章は、そうではない。ひとつの型から、無数の痕あとを生み出すことができる。言い換えれば、人間は痕跡から複製という技術を発明したことになる。さらに重要なことは、複製が力であることを意識できたことである。

④ メソポタミアやエジプトの印章が如実に物語るように、そのはじまりから「型」は権力のシンボルだった。柔らかい表面に残されたパターンは、その人の徴しるしであり、その人の力の影響を示すという意味で、その人の力の徴だった。どちらが先に生まれたのかは、分らない。政治的な権力が先で、複製が後であろうか。その逆であろうか。ともかく両者が互いを必要としていることは間違いないだろう。正確な複製はそれを可能にする権力を必要とするし、権力はシンボルを広い範囲に伝えるための複製技術が必要とする。

⑤ 今日の世界で、実用的な技術としてハンコを使い続けている数少ない社会のひとつである日本では、^④このことは自明のこととして受け取られている。「実印」あるいは「印鑑登録」が示すように、複製される「型」は、それを所有する人の権力のシンボルにほかならない。もちろんわたしたちは、宅配便の受け取りに認印みとめいんを捺すたび、自らの権力を意識しているわけではない。やはりこの点でも痕跡は目立たないわけであるが、少なくともハンコを複製技術として見るならば、そこに長い歴史を認めないわけにはいかな

⑥ 今からおよそ六五〇〇年前に二つの河のあいだで生まれた発明は、書物を生んだ最初の革命であった。今日にいたるまで、本というものは、この最初の革命を受け継いでいる。^⑤変わったのは、ひとことと言えば印刷技術である。一度に複製できる量の向上、

複製の質の向上、複製の速度の向上……それは手作りの印章とはとても比較できるものではないけれど、同一の型から無限の痕跡を生み出す技術という基本的な性質自体は変わっていない。おそらく複製の速度と量によって変わりつつあるのは、痕跡ではなく、それを読み解く誰かのほうかもしれない。

(港千尋「書物の変 古代メソポタミアやエジプトの印章と現代日本のハンコを具

(注1) メソポタミアやエジプトの印章と現代日本のハンコを具
界最古の文明の発祥地。

(注2) 印章印。はんこ。

(注3) 実印印役所や役場に「印鑑登録」がされている印。実印でない
ものは「認印」という。

1 自然現象としての痕跡を文化現象として扱うこと とあるが、
「文化現象として扱う」とはどういうことか。

ア 粘土板や印章を博物館に保存して活用すること。

イ 記憶のための技術として文字を使用すること。

ウ 美を表現するために多彩な図案を考案すること。

エ 火や石斧などを用いて生活環境を改善すること。

2 世界を伝える とあるが、ここでいう「世界」とは何か。二十字
以内で書きなさい。

3 「型」の発明であろう とあるが、「型」の発明とはどのような
発明のことか。三十文字以内で書きなさい。

4 このことは自明のこと とは、どういうことか。

ア 「型」が今日のハンコと同様に実用的なものであることは、自
ずと分かるということ。

イ 「型」が権力を一般に広く知らしめるものであることは、証明
を要するということ。

ウ 「型」が政治的な必要性から生まれたものであることは、明白
な事実だということ。

エ 「型」がそれをもつ者の権力を象徴するものであることは、
明らかだということ。

5 ④段落と⑤段落について説明したものととして、最も適切なもの
はどれか。

ア 古代メソポタミアやエジプトの印章と現代日本のハンコを具
体例に挙げて、「型」に見られる普遍的な性質に言及している。

イ 古代メソポタミアやエジプトの印章と現代日本のハンコの類
似点を整理して、「型」に見られる宗教的な性質に言及している。

ウ 古代メソポタミアやエジプトの印章と現代日本のハンコを比
較対象として、「型」に見られる装飾的な性質に言及している。

エ 古代メソポタミアやエジプトの印章と現代日本のハンコの相
違点を確認して、「型」に見られる民族的な性質に言及している。

6 変わったのは、ひとことでは言えませんが印刷技術である とあるが、
印刷技術の進歩はどのような状態をもたらしたと筆者は考えてい
るか。

ア 記録することのできる情報が増えて、実物が軽視されつつあ
る状態。

イ 印章や書物とその所有者の力を示すはたらきを強めつつあ
る状態。

ウ 複製速度や量の向上により、読者の側に変化が生じつつあ
る状態。

エ 人類最大の財産リストとしての書物の価値が高まりつつあ
る状態。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

「ある日、私（先生）と呼ばれているは、釣りをしていた「長」や「か
んぶり」というあだ名の少年たちに出会い、鮎ふなを売ってもらおう。それ
から三日して、少年たちが、私の家を訪ねてきた。」

「鮎うなぎとってきただよ。」と長が言った。「買ってくれせえな、先生。」

私はかれらの期待に満ちた注目をあびて、自分に拒絶する勇気のないことを悟り、かれらを勝手口へ廻まわらせた。そこでもかれらは一列に並び、ひとりひとりが私に向かって自分の鮎うなぎに値を付けさせた。そのときになって初めて、寝起きのぼんやりした私の頭が、かれらの奸悪かんあくな計略を理解した。つまり、まとめて売れば安くなるが、一尾ずつなら安い値踏みはできない、という狙いなのだ。

「ほれ、みせえま。」とかれらはそれぞれの鮎うなぎを私に誇示した。「こんなになつてえだ、五寸くれえあるだえ、先生。」

そして「しよつから」へゆけばこれ一尾で「かん注3」は取られる、と言つて互いに頷うなずき、肯定しあうのであった。私はそこでもまた自分が畏おそに落ち、縛りあげられたことを知った。私はかれらの誘導にしたがつて、値段を付け、それらを買取った。

「いいさ。」と私はかれらの去つたあとで自分に言い聞かせた、「味噌煮みそにしておけば保つからな、当分おかずに困らないで済むわけだ。」

私はまえの味噌煮を井へ移して、それらの鮎うなぎを新しく味噌煮みそににした。

人は信用しないかもしれない。私自身もこれを書きながら、たぶん人は事実だとは信じないのだろうと思うのであるが、少年たちはその儲け仕事もちじがあまりにたやすく、かつ確実であることに昂奮しょうふんと情

熱を感じたらしい。二三日するとまたやつて来て、さもうれしそうにはしゃぎながら、窓の戸を叩たたいた。

「並べつてばな。」と長の言うのが聞こえた、「おんだらが先だぞ、押すな。」

拒絶されようなどとは寸毫すんごうも疑わず、確信そのもののような少年たちの顔を見て、それだけで私は自分の敗北を認めた。——ここまですれ違った方は、もはや小悪魔どもが私を放さないだろう、と想像されるにちがいない。私にしても、仮にふところもつとあたたかであつたら、容易にかれらの手から逃れがたかつたろうと思う。人は黄白おうはくの前には、しばしば恥を忍んで屈しなければならぬものだ。少年たちが四度めに襲撃をかけて来たとき、ふところの窮乏という現実に助けられて、私はきつぱりと鮎うなぎの買い取りを拒絶した。するとそこに、ま注4つたく予想しない事が起こつて、私をおどろかせた。

私に拒絶されて、少年たちは明らかに失望し、途方にくれた。かれらは顔を見交わし、先生が駆引かけひきしているのではないかと疑い、そうでないことを認めるともつと失望し、どうしたものかというふうに、それぞれの手にした器物の中の鮎うなぎを見まもつた。

「みんな。」と長が急に言った、「それじゃあこれ先生にくんか。」

くんかとは、贈呈しようか、というほどの意味である。途方にくれ、落胆していた少年たちの顔に突然、生気がよみがえった。それは囚とらわれの縄を解かれたような、妄執まじがおちたような、その他もろもろの羈絆きはんを脱したような、すがすがしく濁りのない顔に返った。

「うん、くんべ。」と少年の一人が言った、「なせ、これ先生にくんべや。」「くんべ、くんべ。」先生、これ先生にくんよ。」とかんぶりが

言った、「みんな、勝手へいつてあけんべや。」

私は自分の大きな過誤を恥じた。

少年たちに狡猾と貪欲な気持ちを起こさせたのは私の責任である。初めに私は「その鮒をくれ。」と言えばよかったのだ。売つてくれと言ったために、かれらは狡猾と貪欲にとりつかれた。私のさみしいふところを搾取しながら、かれらも幸福ではなかった。その期間、かれらは貪婪な漁夫でありわる賢い商人だったからだ。私は深く自分を恥じた。

「先生にくんよ、か。」と私は口まねを試みた、「これ先生にくんよ。」

そう言ったときの、すがすがしく、よみがえったような顔つきや動作を思いうかべながら、私は深く自分を恥じた。

(山本周五郎「青べか物語」から)

(注1) 奸悪な計略||悪だくみ。

(注2) しょつから||つくだ煮屋の店の名前。

(注3) かん||錢貨を数える単位。

(注4) 寸毫||ほんの少し。

(注5) 黄白||金錢。黄金と白銀による。

(注6) 羈絆||行動を束縛するもの。

(注7) 狡猾||悪がしこくて、ずるいこと。

(注8) 貪婪||欲の深い。

1 (1) かれらは一列に並び、……鮒に値を付けさせた とあるが、その理由を「私」はどのように考えているか。

ア 私がぼんやりとしているうちに、鮒を高値で買わせるため。

イ 鮒をまとめ買いされて、値が安くなることを避けるため。

ウ 礼儀正しくすることで、鮒を気分よく買ってもらうため。

エ 一尾ずつ交渉することで、鮒をすべて買い取らせるため。

2 (2) いいさ と言ったときの「私」の心情を説明したものと最も適切なものはどれか。

ア 仕方がないときらめ、自分を納得させようとしている。

イ 落ち着きを取り戻し、思わぬ成果を手にして喜んでい

ウ 悔しくてたまらず、怒りのやり場を失ってしまっている。

エ 本音を出すことができずに、ふてくされてしまっている。

3 (3) 二三日すると……窓の戸を叩いた におけるような態度の「少年たち」をたとえた表現を本文中から五字で抜き出しなさい。

4 (4) まったく予想しない事 とは、どのようなことか。二十字以内で書きなさい。

5 (5) 私は深く自分を恥じた とあるが、なぜか。五十字以内で書きなさい。

6 本文の特徴を説明したものと、最も適切なものはどれか。

ア 本文中に方言を多用することで、地元の人々との触れ合いの中で成長する少年たちの姿を読者が想像しやすくなっている。

イ 慣用句や難解な熟語が繰り返し用いられることで、厳格で近寄りがない主人公の人柄を読者が理解しやすくなっている。

ウ 本文中に読者の反応を想定した表現が入ることで、読者が物語を現実にあつた出来事としてより感じやすくなっている。

エ 郷愁を誘う風景描写に、登場人物の心情を重ね合わせることで、読者が少年たちの心情の変化に気付きやすくなっている。

5

図書委員会では、全校生徒に読書のすばらしさを伝えるために、「本は だ」という標語を作ることにした。話し合いの中で、左の六つが候補となり、その中から一つを選ぶことにした。あなたならどれを選ぶか。選んだ理由も含め、次の《注意》に従ってあなたの考えを書きなさい。

《注意》

- ・ 左の候補の中から一つ選び、その標語を国語解答用紙(2)の決められた欄に書くこと。
- ・ 選んだ標語の比喩表現^{ひゆ}について説明すること。
- ・ 二百四十字以上三百字以内で書くこと。

候補

- ・ 本は友だちだ
- ・ 本は遊園地だ
- ・ 本は宝箱だ
- ・ 本は先生だ
- ・ 本はタイムマシンだ
- ・ 本は世界地図だ